

# (社)日本詩人クラブ 2022年 7月 例会のご案内

## —受賞者記念講演—

日時 2022年7月9日(土) 13時30分～16時30分 会費500円(会員・会友も)

会場 板橋区立グリーンホール 601

### 詩朗読 & スピーチ、そしてキーボードによる弾き語り

林 柚維 (横浜市) / 酒木裕次郎 (取手市) / Arim (小林万利子、山梨市)

新アルバム収録予定曲〈Bless (祝福する) —平和への祈り〉から  
`Prayer、`Beginning、`Home、`Be Happiness、

### 受賞者講演「ことばに励まされながら」 第55回日本詩人クラブ賞 草野信子

1949年福井県生まれ。現在、愛知県稲沢市在住。20代の終わり、木版書家の篠田昭二さんと出会い、詩を書くことを勧められる。30歳のとき、初めて書いた詩を「詩人会議」読者欄に投稿したことが、詩作の年月の出発となる。2011年東日本大震災後、足裏マッサージの資格を取得し、2012年より2015年まで、個人の活動として宮城県の実設住宅を訪ね、施術ボランティア。それらの日を、詩集『その日まで』(2016)にまとめる。その他、詩集に『冬の動物園』(第13回壺井繁治賞)、『戦場の林檎』(第6回日本詩人クラブ新人賞)、『地上で』(第44回中日詩人賞)、『母の店』(2021)など。現在、詩人会議会員、「冊」同人、「ジャンクション」発行同人。

### 受賞者講演「シジンへの道 ～呪いと渡り合うために～」

第32回日本詩人クラブ新人賞 二条千河

1980年札幌生まれ。北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院博士前期課程修了。小学2年生の時に担任の勧めで物語を書き始め、中学時代には演劇部で脚本を多数執筆、ほぼ時を同じくして詩作を開始する。

10代の大半は千葉県船橋市で、20代は生地・札幌で過ごす。30代、すなわち東日本大震災の前年(2010年)から北海道胆振東部地震の翌年(2019年)までの約10年は胆振管内の白老町で森と湖を愛でながら暮らし、同期間の発表作品をまとめた詩集『亡骸のクロニクル』を洪水企画より2021年7月に上梓、第55回北海道新聞文学賞詩部門佳作および第32回日本詩人クラブ新人賞を受賞。ほか、詩集に『赤壁が燃える日—現代詩「三国志」—』(2005年)、『宇宙リングのID』(2011年)がある。現在は同じく胆振管内のむかわ町に在住。

Arim (小林万利子) プロフィール

詩人、シンガーソングライター。

詩集『月がまるみをおびる地点まで』『ひかり』『永遠のポンプ』『青空のかけら』。絵本『猫のペコリ』。

CD『きみのもとへ』、チャリティープロジェクトEP

『Love For You, For Gaza, For the Children』他

#### 板橋区立グリーンホール

東京都板橋区栄町36-1  
TEL:03-3579-2221

- 東武東上線「大山」駅  
北口から徒歩約5分
- 都営三田線「板橋区役所前」駅  
A3出口から徒歩約5分



例会担当理事 谷口ちかえ